

重点項目		取組実績
大項目	小項目	
1	死因究明及び身元確認に係る業務に従事する警察等の職員、医師、歯科医師等の人材の育成及び資質の向上について	<p>各機関において、死因究明等に係る業務(検視、検案、解剖、歯牙鑑定、死亡時画像診断等)に従事する人材の育成及び資質向上を目的とした取り組みを継続的に行う。</p> <p>【県警】 ・捜査員を対象に、巡回教養、検視専科、検視講習を実施した。 ・中四国管区検視官会議(リモート会議)に出席して、事例を発表し情報を共有した。 ・全国検視官会議(リモート会議)に出席して、全国の事例を把握して知識向上を図った。 ・新型コロナウイルスの影響により実施できなかったもの(高知県警察協力医会、高知県歯科医師会との合同研修会)</p> <p>【海上保安部】 ・令和3年10月26日から同月28日までの間において、高知県警察本部刑事部捜査第一課が主催する検視実務教養を聴講し、資質向上に資することができた。</p> <p>【医師会】 ・令和3年度死亡時画像診断(Ai)研修会の開催(オンライン) ・令和3年度死体検案研修会(基礎・上級)の開催(オンライン、見学実習) ・令和3年度高知県医師会検案業務研修会の開催</p> <p>【歯科医師会】 ・南国警察署にて高知県警並びに高知海上保安庁職員に対しての身元確認講習会並びに実習(対面形式)【R3.10.28】 ・高知市歯科医師会会員対象に、身元確認講習会、訓練(オンライン)【R4.2.16】</p> <p>【法医学教室】 ・令和3年度死亡時画像診断(Ai)研修会に当教室所属の医師2名が参加した。 ・令和3年度死体検案研修会(上級)に参加した医師1名に対し、解剖見学実習を実施した。 ・令和3年度高知県医師会検案業務研修会へ講師1名派遣</p> <p>【放射線技師会】 ・令和3年度は、コロナ禍のため計画していたAiに関する講習会を開催できなかった。令和4年度には、コロナ禍の感染状況を鑑み、開催の検討を行いたい。</p>
2	警察等における死因究明等の実施体制の充実について	<p>異状死体の取扱業務に従事する警察官や海上保安官に対する検視技能向上を図るとともに人員体制充実のための取り組みを継続的に行う。</p> <p>【県警】 ・検視官が臨場できない場合、画像転送システムを活用して、現場からの画像伝送により詳細な状況を確認している。 ・薬物関係(アイベックススクリーン)の検査実施数は841体(72.1%) ・積極的な解剖を実施し、解剖率(R3)は85体(7.3%)</p>
3	死体の検案及び解剖の実施体制の充実等について	<p>死体検案に従事する医師の継続的な確保に努める。 法医学教育・研究の拠点で、また、県内で唯一の法医解剖の実施機関である高知大学医学部法医学教室の機能充実と長期的な人材確保に努める。 在宅での看取りに円滑に対処できる仕組み作りについて、関係機関との連携・協力のあり方について検討する。</p> <p>【県警】 ・警察協力医会会員の現在の会員数は44名。 ・警察協力医による検案は560体(48.0%)。 ・警察協力医会員以外の医療機関にも理解を得て、遺体の持ち込み検案やCT撮影などを行っている。</p> <p>【法医学教室】 ・令和3年4月より新たに常勤医師1名確保</p> <p>【県】 ・人生の最終段階における医療・ケア検討会議の開催(新型コロナウイルスの感染拡大により、2回の開催予定が1回となる) ・開催を予定していた公開講座(高知市・安芸市・四万十市)及び県政出前講座は、新型コロナウイルスの感染拡大により中止 ・医療介護従事者を対象とした相談員研修(厚労省委託事業)へ10機関31名の参加 ・県民世論調査で、ACP(アドバンス・ケア・プランニング)の認知度について調査 →8割強の方が知らないと回答 ・ACPの啓発ポスターの作成、配布。 ・昨年度作成したACPのパンフレットを一部改訂し増刷、配布</p>
4	薬物及び毒物に係る検査、死亡時画像診断(Ai)その他死因究明のための科学的な調査の活用について	<p>警察等における科学捜査体制・機能の充実を図るとともに、解剖実施機関であり専門機関でもある大学医学部法医学教室において迅速かつ精度の高い薬毒物分析が実施できるよう検査機器等の充実に努める。 Ai実施機関の充実を図るとともに、Ai検査方法の標準化(撮影方法、結果の報告等)、Ai読影医の確保及び読影能力の向上に努める。</p> <p>【県警】 ・科学捜査研究所によるDNA型等の各種鑑定を実施し、迅速な結果回答を得ている。 ・簡易薬物検査(アイベックススクリーン)、青酸化合物簡易検査(シアンチェッカー)実施している。 ・Aiの実施件数は898体。</p> <p>【法医学教室】 ・令和3年度死亡時画像診断(Ai)研修会に当教室所属の医師2名が参加した。(再掲)</p>
5	大規模災害発生時等の身元確認及び死体検案作業への対応について	<p>身元確認に従事する歯科医師の確保、歯牙情報の標準化(全国共通一デンタルチャートの導入)及び同情報のデータベース構築等について検討する。 南海トラフ巨大地震などの大規模災害発生時において身元確認及び死体検案作業が適切に実施できるよう、日頃から関係機関の連携を図るとともに、平素から有事に備えるために、関連する訓練等への積極的な参加により、当該技能の向上に努める。</p> <p>【県警】 ・土佐市と共同開催した多数死体取扱訓練を実施した。 ・発災時、遺体などを洗浄するための水を確保すべく浄水器を増設した。 ・感染症予防対策機器として、オゾン発生装置を新規配備した。</p> <p>【歯科医師会】 ・大規模災害時の身元確認作業訓練について コロナ感染症が拡大する前までは、高知市で歯科医師会会員と県警職員がペアになって、身元確認講習会、訓練を実施していたが、ここ二年限り開催自体困難でありまた、効率も良くないので、歯科医師会の各地区会員に地区レベルで講習が可能な人材を育成中である。 ・大規模災害時の身元確認作業講習、訓練の動画を作成 身元確認作業講習会並びに実習の効率化を計る為に、それぞれの動画を作成した。</p> <p>【県】 ・保健所別火葬場関係者等連絡協議会の開催(5保健所で開催(10/20、10/27、10/29、11/11、11/18)) ・広域火葬情報伝達訓練の実施(広域火葬受入れ調整、物資調達等) 市町村、火葬場、葬祭組合等(11/16、11/17) ・実地訓練の実施:土佐市(11/2)</p>
6	死因究明により得られた情報の活用及び遺族等に対する説明の促進について	<p>死亡時画像診断で得られた異常所見情報を解剖診断時に活用できる仕組み(事例検討含む)について検討する。 死因究明及び身元確認業務に従事する関係機関による合同の事例検討研修会の実施について検討する。</p> <p>【県警】 ・検視専科・検視講習を実施した。検視専科では医師等による専門的教養の他、実践的な検視要領を習得するための想定訓練を実施した。 ・担当警察官から遺族に対して調査結果を可能な限り説明している。 ・解剖前にAi画像データを執刀医に確認してもらい、解剖時の参考として有効活用している。</p>